

5-2 教育改革のための情報通信技術活用に伴う知識と戦略的活用の普及

5-2-1 教育改革ICT戦略大会

<事業計画>

中央教育審議会の「質的転換答申」と第2期教育振興基本計画に基づく「大学改革実行プラン」を踏まえて、平成29年度までに取り組むべき教育改革の戦略について共通理解を形成するため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「教育改革ICT戦略大会」を継続実施し、ICTの活用を含むアクティブ・ラーニングによる授業や双方向型授業への取り組み、eラーニングによる反転授業の可能性、ラーニング・マネジメントシステムによる学修時間・学修行動の把握、IR（大学機関調査）の重要性と組織的な対応、eポートフォリオシステムなど教学システムについて理解の共有と普及を図る。

<事業の実施状況>

「教育改革ICT戦略大会運営委員会」を継続設置し、「教育改革ICT戦略大会」を開催した。以下に、委員会及び大会の活動を報告する。

教育改革ICT戦略大会運営委員会

平成26年4月19日、6月6日、27年2月21日に平均14名が出席し、3回開催した。教育改革の基本的な課題や情報通信技術を活用した教育改善の政策、主体的学修を実現するための学修システムの工夫、最新の情報通信技術の環境等の知識・理解を啓蒙・普及するために「教育改革ICT戦略大会」の開催計画の策定・実施準備を行った。

(1) 開催計画の策定

大会のテーマを「改革行動の展開に向けて」とし、平成29年度までの「大学改革実行集中期間」に大学力強化に向けた全学的な改革行動への取り組みについて、主体的・能動的な力の育成とグローバルな視点で世界や地域社会に関与できる力の育成を目指した新たな改革行動に向けた戦略・戦術を探究することにした。

プログラムとして特に配慮した点は、一つは学外からの意見を取り入れるため、「産業界から見た教育改革」、「卒業生からみた教育改善」を設けた。二つは主体的な学びを実現するアクティブ・ラーニングの実践例の紹介と課題を考察できるようにした。三つはアクティブ・ラーニングの支援に必要なファシリテータ制度の仕組と学修環境としてのラーニング・コモンズの活用を紹介することにし、1日目に全体会、2日目にテーマ別自由討議で策定した。なお、以上の他に、3日目にICTを活用した教育や支援環境に関する発表を行うとともに、大学・企業共同によるICT導入事例の紹介をポスターセッション形式で実施することにした。開催要項は、83ページを参照されたい。

(2) 開催結果

9月3日から5日の3日間、東京市ヶ谷の私学会館を会場に、187大学、17短期大学、賛助会員13社が参加し、発表者を含めて463名が参加した。以下に全体会とテーマ別自由討議で強調・指摘された点、確認された点を中心に概要を報告する。

[全体会]

- ① グローバル人材育成に向けた教育の課題としては、Communication（協働する心）、Diversity（他人を理解し認める）、Global（世界の要請を視野に）、Identity（自分の専門分野を持つ）、Personality（信頼される人格を養う）であることが指摘された。
- ② 大学教育に対する卒業生からの改善要望として、グループワークなどを取り入れた実践形式での学びの導入、学びの動機付けを図るための卒業生・社会人との対話や接触する場の提供が強調された。
- ③ アクティブ・ラーニングの実施には、学生の気づきを誘発するための「問い合わせ」の設計、自学自修徹底のための小テスト、学修を支援するファシリテータ、学修相談を含めた多面的な学びを支援するラーニングコモンズが不可欠であることが確認できた。
- ④ J M O O Cによる反転授業の取り組みには、10分単位の映像制作、資料・課題等のコンテンツ開発、ネット上の掲示板運営があり、教員以外にTAと運営スタッフ1名ずつが最低限必要で、開講準備に5か月かかっていることが確認できた。
- ⑤ 自らの目標を自ら見出し実践する「主体性」が求められているが、学生が能動的に学修できる大学の講義や環境整備が遅れている。主体性を引き出すためには、産学連携によるPBL型学修を通じて、初年次の前半に多様な学生の中での学び合い・教え合いの場を設定することが重要であり、多様性・主体性・協働性を培うには大学教育に限界があることから、高校教育との接続を考えた一体的な改革の必要性が強調された。

[テーマ別自由討議]

- ① アクティブ・ラーニング実施に伴う課題としては、能動的な学びの姿勢を持続化させるために、4年間を通してアクティブ・ラーニングのカリキュラムの作成が必要であることと、学生が作成したポートフォリオを教員が授業改善に役立てるなど、双方での学修評価の制度の可視化が必要であることが確認された。
- ② 反転授業の課題としては、何を反転し何を対面授業で行うのか明確な目的が必要であることが強調された。
- ③ 電子教科書導入にあたっては、成績の向上、教育インフラの整備、知識の定着化、積極的な授業の変革など何を選択するのか目的を明確にした上で、電子教科書を使わせる仕掛けづくり、補助教材や講義資料との連携、端末で利用できるコンテンツの充実が重要であることが強調された。
- ④ 学修支援としてのファシリテータの導入は、指導に携わった大学院生自らの成長に大きく役立っていること、ファシリテータの募集・研修、担当教員との密接なコミュニケーションなどの制度的な仕組みが課題であることが確認できた。
- ⑤ ラーニングコモンズを発展的に活用していく課題として、大学の教育目標の達成を見据えたラーニングコモンズの位置づけ・機能の明確化、他の教育支援組織との綿密な連携、全学的な教学 I Rに関連づけたラーニングコモンズ利用の評価方法の確立、利用に伴う教員間連携の仕組みづくり、学修支援スタッフ育成プログラムの点検などが確認できた。

開催結果の詳細は、事業報告の附属明細書【2-9】を参照されたい。

平成26年度 教育改革ICT戦略大会 プログラム

9月3日 全体会議

9月4日 テーマ別主旨討論

会場	9：50 開会挨拶 公益社団法人 私立大学情教育協会 会長	10：00 【産業界からみた教育改革】 クローバー人材育成に向けた課題 大学力強化に向けた全学的な改革行動への取り組みとして、世界の変化、地域社会の変化に応じた独自の教育を開拓していく必要がある。それには、多様な価値観や世界観が潜在する中で想いを受け止め、独自性をもつて課題に向き合っていく人材育成が要望されており、分野横断型の教養教育と専門教育をもつて融会したアーバン型教育の実現について認識を共有したい。 DIC株式会社取締役会長 杉江 和男 氏	10：00 [分科会A] アクティブ・ラーニング実施に伴う課題の考察 学生参加型学修としてのアカティブ・ラーニングを体験することにより得られる効果について、大学側の視点と学生側の反応を確認するとともに、対話学修での成績評価の客観性および主体性の定着度の評価を含めて考察する。	会場：5階 大雪 会場：5階 桃高
3階 富士	11：00 【卒業生からみた教育改革】 卒業生からみた大学教育に対する意見を踏まえて、大学教育の改善に向けた要望を浮き彫りにし、社会で發揮できる能力をいかに育成していくべきか、産学連携、地域社会との連携などの面から考える機会としたい。 入社3～4年の情系企業の社員数名	12：30 12：45 休憩	12：30 12：45 大学・企業によるICT導入・活用事例（ポスターセッション）の概要紹介	[分科会B] 多機能端末の活用と電子教科書導入による教育実践 授業中の学生からの疑問点の書き込みによる授業内容の改善、学生同士の教わりなど様々な教育に活用している多機能端末の導入と、企業と連携した電子教科書の導入の背景、目的、実施に伴う課題について、事例を踏まえて認識を深める。
13：00 14：00 休憩	13：00 【学生の主体性を育む工夫】 アクティブ・ラーニングの読み 学生の主体的学びを実現するために組みには、一方的的な授業ではなく、学生の能動的な学修への参加を目標とした授業や学修法の工夫が求められ、例えば、議論など対話学修の組み合わせ、グループによる事前事後調査と調査結果・解説学修、多數の意見・問題発見など、様々な教育事例が考えられている。 長崎大学 理学部教授 西村 宜彦 氏 北海道大学 理学部教授 鈴木 久男 氏	14：00 16：30 休憩	14：00 16：30 学修支援の仕組みと支援者の養成 全学共通教育で学術的文章の作成を動画配信し、ネットを通じて大学生が指導する学修支援の仕組みの事例と、グローバルスクールによる教育支援ポートの点検、整理など、大学生による教育支援と養成を組織的に展開する事例を紹介し、アクティブ・ラーニング実現のための支援体制について認識を探める。	[分科会C] ラーニングコモンズの発展的な活用 授業外学修の促進を実現するための学修環境として必要な施設、支援スタッフ、支援組織の構成などについて、事例を踏まえて理解を深めることにも、様々な学修支援の工夫と教育組織との連携を通じた学修の質の転換を考察する。
15：00 15：15 休憩	15：00 【ICTを活用した新しい学び】 反転授業の実践イメージと環境づくり アクティブ・ラーニングコモンズの活用をめざして、様々な使いができる共用施設としてのラーニングコモンズの活用とその効果について紹介する。また、文章の作り方、情報の読み方など初心向けの基本的なスキルの習得と、問題発見能力などの育成をサポートする大学院生、教職員などによるファシリテータの仕組みを紹介し、アクティブ・ラーニングの展開に必要な体制整備について理解を共有する。 関西大学 総合教育育センター副センター長 山崎 めぐみ 氏 関西大学 教育推進部 副部長 山本 敏幸 氏	15：15 休憩	15：15 休憩	[分科会D] ラーニングコモンズの発展的な活用 授業外学修の促進を実現するための学修環境として必要な施設、支援スタッフ、支援組織の構成などについて、事例を踏まえて理解を深めることにも、様々な学修支援の工夫と教育組織との連携を通じた学修の質の転換を考察する。
15：30 16：45 休憩	15：30 休憩	15：30 休憩	15：30 休憩	[分科会E] 情報発表会 ※参加費 別途4,000円が必要です。 会場：6階 伊吹
16：45 17：00 終了	16：45 17：00 大学・企業によるICT導入・活用事例（ポスターセッション） 中央教育審議会会長、独立行政法人日本学術振興会理事長 安西 衍一郎 氏	16：45 17：00 大学・企業によるICT導入・活用事例（ポスターセッション） 会場：5階 函下	16：45 17：00 大学・企業によるICT導入・活用事例（ポスターセッション） 会場：5階 函下	9月5日 大会発表（6件）

5-2-2 短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議

＜事業計画＞

社会のニーズと短期大学教育のマッチングを行い、教育の質的転換が促進できるよう「短期大学就業力コンソーシアム構想」に基づく活動を支援する。また、文部科学省中央教育審議会において議論されている短期大学の役割・機能の情報を共有し、地域社会と連携した就業力教育の充実を目指すため、「短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議」を継続実施し、ＩＣＴを活用した教育戦略について研究討議する。

＜事業の実施状況＞

「短期大学会議教育改革ＩＣＴ戦略運営委員会」を継続設置して、「短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議」を開催するとともに、短期大学就業力コンソーシアム構想に基づいた活動を支援した。以下に、委員会の活動を報告する。

短期大学会議教育改革ＩＣＴ戦略運営委員会

平成26年4月28日、5月26日、7月26日、平成27年3月16日に平均5名が出席し、4回開催した。短期大学教育の機能強化を図るために、地域社会と連携した就業力教育の充実を目指して、全国の短期大学を対象に「短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議」の開催計画の策定、実施準備を行った。また、短期大学就業力コンソーシアムによる卒業生アンケートを集計・分析し、短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議で報告した。

(1) 開催計画の策定

短期大学の強みを生かした教育を展開していくため、地域社会や産業界から求められる「短期大学士力」の確立を目指して、アクティブ・ラーニングなど効果的な教育方法について実践事例を通じて探究するとともに、中央教育審議会の短期大学士力に関する審議動向を踏まえて、短期大学士として必要な能力を確認し、卒業生から教育に望まれる内容を業種別に整理した「短期大学就業力コンソーシアム」の調査結果を教育改善に反映することを目指し、以下のように開催計画を策定した。

短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議開催要項

日 時：平成26年9月4日（木） 13:00～16:30

場 所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

【開催趣旨】

中央教育審議会では、短期大学の教育の在り方について、その役割と機能の面から見直しを進めており、短期大学は4年制大学と専門学校との差異化を通じて、強みを具体的に明確化していく点が問われている。このような状況を踏まえて、地域社会や産業界から強く求められている「短期大学士力」を有する有為な人材育成に積極的に取り組む必要があり、アクティブ・ラーニングなど効果的な教育方法の導入による抜本的な教育改革が不可欠となっている。

そこで、本会議では、中央教育審議会での審議の動向を踏まえて、短期大学士として必要な能力を整理確認する中で、職業一般に必要な教養教育、地域・企業等社会の人材ニーズに対応した教育、ライフステージに応じた教育、学士課程教育への接続教育の在り方を点検するエビデンスとして、「短期大学就業力コンソーシアム」の調査結果を活用した短期大学教育と就業力とのマッチングを通じて、さらなる短期大学士力の確立を目指す契機としたい。

【開会挨拶】 短期大学会議教育改革 I C T 戦略運営委員会 戸高 敏之 委員長

【事例紹介 1】 「アクティブ・ラーニング手法を取り入れた地域・産業界との連携教育」

静岡英和学院大学短期大学部食物学科准教授 前田 節子氏

アクティブ・ラーニングを活用した教育力の強化、地域・産業界との連携によるインターンシップの高度化などの取り組みを食物学科の学生を対象に行い、その結果、学生の自主的な授業参加、課題発見力、実践的な計画・立案力、情報分析力などの社会人基礎力の向上に効果が見られたことを紹介する。

【事例紹介 2】 「自ら考え行動しチーム貢献できる保育者養成」

聖徳大学大学院教職研究科、同短期大学部保育科教授 蔡中 征代氏

学生の主体的な学びを推進する課題解決型学習として、少人数コミュニティを形成し、保育現場と連携したテーマ学習、学習成果の発表、相互評価の実施などアクティブ・ラーニングを駆使するとともに、保育科教員全員によるFD活動、事務局による教育支援体制など全学をあげての教育を通して、保育現場で必要とされる能力向上に効果がみられたことを紹介する。

【話題提供】 「短期大学士力の考察～中央教育審議会での意見を踏まえて～」

中央教育審議会大学教育部会短期大学ワーキンググループ専門委員 小林 雅之氏

東京大学大学総合教育研究センター教授

現在、検討が進められている「短期大学教育の在り方」についての意見等を紹介いただき、短期大学における教育の価値について共通認識を得るため、短期大学士力として身につけるべき教養教育、職業教育のための基礎的な実務教育等、短期大学の強みを發揮するための教育改善について話題提供を受け、意見交換を行う。

【活動報告】 「短期大学就業力コンソーシアムによる教育点検」

職業一般に必要な教養教育、地域・企業等社会の人材ニーズに対応した教育、ライフステージに応じた教育、学士課程教育への接続教育の在り方を点検するエビデンスとして、短期大学として取り組むべき課題を洗い出し、教育改善に向けた取り組みを促進するコンソーシアムについて、実施報告と事例を踏まえた活用の意義・効果を紹介し、意見交換をする中でコンソーシアムの拡充を呼びかける。

<短期大学就業力コンソーシアムの実施報告>

短期大学会議教育改革 I C T 運営委員会

<教育成果を点検するための卒業生アンケートの活用>

戸板女子短期大学キャリアセカンドキャリアセカンド部長 坂 勇次郎氏

<討議>

(2) 開催結果

参加者は 35 短期大学から 47 名の参加があった。以下に会議で確認された点を中心に概要を報告する。

- ① 地域・企業連携による商品開発や食育ボランティア、インターンシップなどの能動型学修を実施したところ、課題発見力、実践力の能力の向上が確認できた。
- ② 保育現場と連携したテーマ学習や学習成果の発表、保育科教員全員による FD 活動を実施したところ、保育現場で高い評価が得られたことが確認できた。
- ③ 中教審短期大学ワーキンググループで指摘されたこととして、短期大学の強みと弱みを明らかにした上で、教育目標を設定し、大学ポートレート、IR などによる積極的な情報公開により、専門学校との差別化を行う必要が確認された。
- ④ 短期大学就業力コンソーシアムによる調査の結果、資格取得に関わる学科では、学科や専門領域の学問や知識が重要で、事務、接客等の職種の場合は、ジェネリックスキルが求められることが確認できた。
- ⑤ 卒業生アンケート活用の実践例として、卒業生アンケートを教学マネジメントに反映させるため、IR 会議による分析と評価を通じて、教育課程編成に関する全学的な

方針の策定を実施し、教育改革の貴重な情報として反映されていることが確認された。
開催結果の詳細は、事業報告の附属明細書【2-10】を参照されたい。

(3) 短期大学就業力コンソーシアムによる卒業生アンケートの集計・分析

運営委員会でアンケートの集計と分析を行った。回収数は642件で卒業生に対する回収率は9.4%であった。以下に集計・分析結果を掲載する。

現在、「就業中」は92%で、「職種」については、幼児・保育系が4割、接客業2割、事務的職業2割、製造業従事1割、販売的職業他1割の割合となっている。「身に付けておくべき能力」として、幼児・保育系及び栄養士では学問分野や専門領域に関する知識・理解が求められており、接客業、事務的職業、製造業従事では、コンピュータやインターネットの活用力、プレゼンテーション力、資料・報告書等の作成力、外国語の語学力などジェネリックスキルが求められている。また、自由記述による意見では、「知識だけでなく実技も必要」、「試験には論述式も必要」、「詰め込みで目の前のことこなすのに一杯」、「夏休みや冬休みを削っても勉強、ゼミ、課外活動に取り組みたい」、「クラスによって授業や成績評価が異なる」などがあり、知識の修得以外に思考する学びや体験型学修などが求められている。なお、詳細は、事業報告の附属明細書【2-10-1】を参照されたい。

